牧丘第三小学校

『感じ取ったことや考えたことを伝え合う力を育てる指導の工夫』
～子どもの声を引き出す手だてを通して～

Ⅰ．研究の内容

1．研究の見通し

各教科において，話す力を高め，自分の感じたことや考えたことを伝え合う場面を仕組んだ授業を工夫することにより，伝え合う力を高めることができるであろう。

2．研究の具体的内容

（1）子どもの声を引き出し伝え合う手だてを取り入れた授業を工夫する。

（2）「話すこと」の各学年の目標達成に向けた取り組みを工夫する。

（3）話す力について児童の実態を把握し変容を見取る。

（4）今日的な学習課題について学習する。

（新教育課程にそった指導計画の見直し，英語活動に関する研修，機器活用の研修）

3．研究方法

・ 全体会を中心に進める。
・ 全学年で授業公開を行う。
・ 指導主事を招聘し指導を受ける。
・ 児童へのアンケートを基に児童の意識をさぐる。

4．実践内容

（1）子どもの声を引き出し伝え合う手だてを取り入れた授業の工夫

・2年　国語　「黄色いバケツ」　授業者 石原　喜久夫

教材文の全文暗唱を通してジェスチャーを交えながら，場面の様子や登場人物の心情を読み取っていく授業。「おもしろ見つけ」を通して，わくわくどきどきしながら物語を読む楽しさを味わっていた。「根拠と理由の区別と言語化」「五つの言語意識」などについて，義務教育課指導主事小林　大先生より指導助言をいただいた。

・3年　道徳　「自分のよいところを見つけよう」　授業者　山本　裕美子

自分のよいところを見つけ合って，これからの自分について考える授業。

自分の良いところを短冊に書いて発表した。その後で，友達や参観の先生方からも良いところを言ってもらい，自分を認め自信を持って生活しようとする心情を高めることができた。

・4年　道徳　「チェック　チェック　チェック」　授業者　津野　千尋

二択クイズ形式の資料を使って自分の生活チェックをして，自分の自立への課題を考える授業。「生活チェック」をしながら自分の生活を振り返ったので，反省や改善に向けた沢山のつぶやきが出され，友達の様子とも比較しながら，楽しく考えることができた。家庭生活が児童の発言に反映されていた。

・５年　国語　「百年後のふるさとを守る」　　授業者　関口　若子

伝記を読んで，自分の生き方を考える授業。教材は，折りしも３月１１日の東日本大震災と重なり，児童に様々な問題を提起してくれた。６人という少人数ではあるが，さらに，２～３人のグループ討議をして，目標にせまることができた。

・６年　理科　「水溶液の性質とはたらき」　　授業者　竹川　俊之

塩酸に鉄が溶けた液を蒸発させて出てきた物は，鉄なのか調べる授業。ホワイトボードを利用して，全員が自分の考えを図・絵・コメントなどで表現して発表した。少人数の利点を生かし，５つの検証実験も全員が全部実施することができた。「実験の前と後に言語活動充実のポイントがある。」などと，峡東教育事務所主幹指導主事荻原　徹先生より指導助言をいただいた。

（２）「話すこと」の各学年の目標達成に向けた取り組みを工夫する。

目標を教室に掲示したり，朝の会などで，話のテーマを設定したり話し方の順序を示したりして分かりやすく話が伝えられるように，継続的にスピーチなどに取り組んだ。代表委員会や児童総会においても，他学年の意見を聞いて自分の意見と比べて発表しようとする意識が高まり，話し合いの進め方が上手になった。

（３）話す力について児童の実態を把握し変容を見取る。

児童数が少ないので，一人ひとりの変容を全職員で極細かく見取ることができた。日々の授業や学校生活の中での教師相互の見取りや子どもアンケートをもとに，研究会で全校の児童の実態について話し合うことができた。一人の児童が発表する回数も多いので，さらに発表力が高まるようにしたい。

（４）今日的な学習課題について学習する。

夏休みに電子黒板やパソコンを教室で活用する方法について学習した。教室でインターネットを利用することもできるので，授業の中で効果的な活用を考えていきたい。また，特別支援教育について，『通常の学級における支援のあり方～環境作り，授業作りの取り組み～』というテーマで土肥　満先生のお話を聞いて，今後の特別支援教育について学習を深めることができた。

Ⅱ成果と課題

子どもの声を引き出す手だてを考え，それを組みこんだ授業を全職員が授業公開し，研究協議を重ねることで，伝え合う力を高めることができた。また，日頃から相手意識・目的意識などを持ち発表する場面を多く作ったことで，発表の態度が改善され，発表内容もわかりやすくなり，よりよく伝えられるようになってきた。さらに，電子黒板やパソコンなどを活用して視覚的にも興味を持たせ，知識や経験と結びつけて解釈したり，多様な観点から考えを深められたりできるようにしたい。「伝え合う力」を，「話す・聞く・書く・読む」の指導を有機的に関連させることによって育てていきたい。

Ⅲ成果物

・授業案

・話すことについての学年目標と教室掲示　　（研究主任　津野千尋）